

福島子どもプロジェクト2025夏

海をこえてアラスカへ
多文化に触れ平和を育む船旅

活動の記録



**PEACE
BOAT**

PBV
ピースボート
災害支援センター



福島子どもプロジェクトとは

2011年の東日本大震災と原発事故直後、福島県の子どもたちは「屋外で十分に身体を動かせない」「仮設校舎や避難先で落ち着いて勉強できない」など厳しい生活環境を余儀なくされました。

そこでピースボートは、子どもたちに夢と健康を届けたいとの思いから、保養と国際交流体験を提供する「福島子どもプロジェクト」を震災直後に立ち上げました。そして、船上での体験プログラムや滞在型の環境学習など、さまざまな取り組みを実施してきました。このプロジェクトは、南相馬の子どもたちに保養や教育を提供するNPO「南相馬こどものつばさ」など現地パートナー団体と協力しつつ、ピースボートとピースボート災害支援センター（PBV）が共同で実施しています。

福島の子どもたちが置かれた状況は、時間と共に変化し複雑にもなっていますが、ピースボートは子どもたちのさまざまなニーズを聞き取りながら、支援活動を続けていきます。

プロジェクト呼びかけ人

鎌田實（諏訪中央病院名誉院長）

香山リカ（精神科医）

田中優（環境活動家/未来バンク代表）

現地パートナー団体

当プロジェクトは、2011年の初回より、「南相馬こどものつばさ」とのパートナーシップにより実施しています。同団体が、ピースボートとの綿密な協議のもと、子どもたちの選考と送り出し、学校との調整、引率者の派遣を行っております。

特定非営利活動法人 南相馬こどものつばさ

東日本大震災による原発事故発生後、放射能の影響により戸外での活動制限が続いていた子どもたちを、心身ともに解放したいとの願いから2011年6月に発足。市内小中学校PTA連絡協議会のメンバーと県外の支援者が手を結び、学校の長期休暇期間に保養を目的とした林間・臨海学校を提供する活動を続けている。



<https://www.kodomonotsubasa.com/>

福島子どもプロジェクトのこれまで

これまでにのべ100名以上の子どもたちが、福島子どもプロジェクトに参加しました。

「夏休みアジアクルーズ 2011」（2011年7～8月）

南相馬市の中学生49名がピースボートの船旅に約一週間参加。ベトナムでの枯葉剤被害者との交流や、スリランカ大統領夫人との面会、2004年のスマトラ島沖地震による津波の被害者とも交流。

「夏休み 福島×ベネズエラ音楽交流プログラム」（2012年7～8月）

福島の高校生7名がピースボートの船旅に約一か月参加。米国やメシキコで現地楽団と合同コンサートを行ない、船上でベネズエラ「エル・システム」のメンバーと交流。帰国後には歌手の加藤登紀子さんやNTT東日本東京吹奏楽団のメンバーらを交えたコンサートを東京都内で実施。

「2013春 in オーストラリア」（2013年3月）

南相馬市の中学生12名がオーストラリアの家庭でホームステイを行う。現地の学校訪問や風力発電施設やパーマカルチャーガーデンでの環境教育等を通して、持続可能な地球の未来について考えた。

「2014春：異文化を体験するアジア国際交流の旅」（2014年3月）

南相馬市の中学生12名がピースボートの船旅に参加。シンガポールでのアート・ワークショップ体験や、スリランカの津波経験者との交流を行う。

「2015年 春：海でつながるアジア 自然と歴史を学ぶ旅」（2015年3月～4月）

南相馬市の中学生12名がピースボートの船旅に参加。韓国の濟州島では火山島の森のトレッキングや餅作り体験を通して自然との共存について、広島では原爆ドームなどを訪れ戦争と平和について学びました。

「福島子どもプロジェクト2016年夏 平和なアジアは友達作りから」（2016年7月～8月）

南相馬の中学生11名、熊本地震で被災した南阿蘇村の中学生25名がピースボートの日韓クルーズに参加。船内で多国籍の参加者と交流、長崎の平和公園、沖縄では南部戦跡を訪れ、平和について考えました。

「福島子どもプロジェクト2017年夏 南相馬から世界へ 海で繋がるロシア・韓国・日本」（2017年7月～8月）

南相馬の中高生11名がピースボートの日韓クルーズに参加。船内での国際交流だけでなく、韓国の麗水では歴史を学び、ロシアのウラジオストックでは地元のボーイスカウトのサマーキャンプに参加し、異文化体験をしました。

「福島子どもプロジェクト2019年夏 東アジア国際交流の船旅」（2019年8月）

南相馬市、相馬市の中学生3名がピースボートの船旅に参加。海道では泊原発を見学し原発について考え、暮らしとエネルギーについて学びました。宮城では石巻市の街歩きを通して、津波の被害と復興について考えました。

「福島子どもプロジェクト2022年夏 世界遺産の厳島神社、原爆ドームへ行く広島・夏のピーススタディー」（2022年8月）

南相馬市の中学生2が広島でのスタディツアーに参加。平和式典を行う前後の広島で、戦争遺構巡りや被ばく証言などに耳を傾け、広島の文化や歴史を学ぶとともに、改めて、日本や世界の平和について考えました。

「福島子どもプロジェクト2023年夏 夏の広島を舞台に、学び体験するピーススタディーツアー」
(2023年8月)

南相馬市の中学3年生が4名、中学1年生が3名参加。2022年に引き続き、広島へのスタディツアーを行いました。原爆資料館訪問や被爆証言聴講などを通しての平和学習はもちろんのこと、自然豊かな似島でのフィールドワークや体験教室など、学びも遊びもたっぷり取り入れたプログラムを実施しました。

「福島子どもプロジェクト2024年夏 海でつながるアジア 自然と歴史を学び平和を育む船旅」
(2024年8月)

南相馬市の中学2年生が5名、中学1年生が1名参加。「ピースボート ショートクルーズ 2024年夏」に参加。韓国の済州島で自然と文化を学び、金沢では能登半島地震の被災地を訪れ、現状を知り、船内ではアイヌの歴史と文化を学ぶとともに、ニュージーランドのマオリの言語復興の成功例などを学ぶプログラムを実施しました。

福島子どもプロジェクト2025夏

今年は「海をこえてアラスカへ 多文化に触れ平和を育む船旅」をテーマに、海と森に囲まれている米国・アラスカのシトカ、スワードを訪れ、各地に暮らす人々の歴史や文化を学びぶとともに、北米に広がる大自然を体験しました。船内では、日本や中国、韓国などから集まる参加者との世代・国籍を超えた国際交流を始め、語学レッスンを受け、冒険家の高野孝子さんや広島・長崎の被爆者による証言などを聞き、国際的な視野を広げ、平和について考えるプログラムを実施しました。



◆期間

2025年7月21日～8月7日 18日間
ピースボート地球一周の船旅 Voyage120 に乗船

◆行程概要

日付	活動場所	活動内容
7月21日（月）	香港	南相馬出発、陸路成田空港へ 成田空港到着 成田から香港へ 香港到着
7月22日（火）	香港 バンクーバー（カナダ）	香港の街を散策、アートミュージアムを鑑賞 香港から空路バンクーバーへ バンクーバー到着
7月23日（水）	バンクーバー（カナダ） シトカ（米国）	バンクーバーからシアトル経由で空路シトカへ シトカ到着、市内散策
7月24日（木）	シトカ（米国）	シトカ・ナショナル・ヒストリカル・パークを散策 シェルダン・ジャクソン博物館を見学
7月25日（金）	シトカ（米国）	ピースボートに合流乗船
7月26日（土）	洋上	アラスカフィヨルド遊覧
7月27日（日）		水先案内人・高野孝子さんのお話を聞く 被爆者の倉守照美さんのお話を聞く
7月28日（月）	スワード（米国）	犬ぞり体験 市内散策
7月29日（火） ～8月6日（水）	洋上	南相馬の歴史と文化を紹介する企画を行う 「この旅を通して経験したこと」をテーマとした報告会を行う ピースボート災害支援センターのスタッフのワークショップに参加 スペイン語講座に参加 バルーンアート企画やボッチャに参加 多言語の通訳スタッフと交流
8月7日（土）	横浜（神奈川県）	ピースボート（パシフィック・ワールド号）から下船 陸路南相馬へ

※ピースボート日本一周クルーズ（2025年4月23日～8月7日／横浜発・横浜着 107日間）の旅程については、以下を参照：

<https://www.pbcruise.jp/cruise/v120/>

◆参加者（※五十音順）

小丸なるみ（石神中学校：3年）

野口さらさ（原町第二中学校：3年）

水戸稀聖（石神中学校：3年）

◆引率スタッフ

佐久間美結

◆ピースボート事務局

畠山澄子／越智信一朗／川崎哲（コーディネーター）

◆活動の記録

7月21日（月）／Day1／成田空港出発日

ピースボート地球一周の船旅 Voyage 120 における「福島子どもプロジェクト」が、いよいよ初日を迎えました。今回は、南相馬から計3名の中学生が参加しました。

南相馬から成田空港に移動し、成田空港から香港経由でバンクーバーに行く予定が、香港での台風の影響により4時間遅れのフライトとなり、結果的に香港で一泊することとなりました。

なにはともあれ、無事に香港へ到着。不安も多い移動だったかと思いますが、みんなそれぞれ自分から発言したり提案したり、自分たちで考えて行動していました。急遽泊まることとなった香港のホテルでは、ここでもまた自分たちの意見を伝え合いながら2日目の行動計画を立てることができました。そしてなにより、「たのしもう」という前向きな気持ちが見えた一日でした。



7月22日（火）／Day2／香港、バンクーバー

この日はダウンタウンの観光へ向かいました。さっそく電車の乗り方に苦戦するなか、現地の人へ聞いたり教えてもらったり、助けてもらいながらなんか乗り切りました。そして、ランチでは香港料理を食べました。お会計の時には店員さんに「おいしかったです」という中国語を教えてもらいました。

その後は香港アートミュージアムを訪れ、「好物有型」という展示を見ました。建物や展示の仕方、空間の演出、作品たち、それぞれに目を凝らし、各々が作品との出会いを楽しみました。「これがすき」「ここがすごい」という自分が感じた感想を伝え合う姿が見られました。また、海沿いを散歩しながら日本との景色、文化の違いを体感しました。



その後、無事香港からバンクーバーに到着し、ホテルに宿泊。明日のシトカへのフライトに備えます。

7月23日(水) / Day3 / シトカ

バンクーバーからシアトルを経由し、シトカへ向かいました。今日も飛行機の移動でしたが、ご飯を食べたり、お土産を買ったりしながら楽しみました。そしてやっとシトカへ到着しました。肌寒くて少し雨模様ですが、歴史の深い街へ到着しました。

長旅を経たシトカでの1食目はピザやタコスをいただきました。緊張しながらも英語での注文をすることができました。明日は1日シトカを散策予定です歴史を学び、自分たちで「つくる」旅にしていきましょう。



7月24日(木) / Day4 / シトカ

今日はトーテムを見て回るツアーに参加しました。すぐ近くでトーテムを見て、彫ってある生き物や作り方を想像しました。そのあとは博物館に行き、見てきたトーテムの歴史や作り方、実際に当時住んでいた人たちが身につけていたものなど、たくさん学びました。

今日も英語を使って注文したり、地元のスーパーに立ち寄って買い物をしたり、さまざまな場面で英語を話すことに挑戦しました。振り返りの時間では、「もっとこうやって英語で会話をしたい！」と具体的な目標もそれぞれ見つかったようでした。明日はついに船に合流します。ゆっくり休んでまた明日も楽しみましょう。



7月25日(金) / Day5 / シトカ

やっと船に合流できました！ここまでとても長かったです。子どもたちも慣れない環境のなか、よく頑張りました。

船に合流したあとは、避難訓練をしたり、船の生活の流れについて確認しました。そのあとはご飯を食べたり、卓球をやったりとそれぞれの時間を過ごしました。



7月26日（土）／Day6／洋上日

今日は朝から「南相馬についての発表」に向けての打ち合わせや、水先案内人の方々とのお話など、船内の人とたくさんお話をした1日でした。

午後はアラスカフィヨルドを遊覧し、氷山を見ることができました。初めての景色にみんな驚き！陸地にいては見れない景色に感動しながら、氷山を目撃、感じたことを日本に帰ってからお土産として伝えていきたいです。船の中の企画にも参加しながら、船内にいる人たちとの交流を楽しみました。



7月28日（月）／Day8／スワード

オプショナルツアー参加【アラスカの犬ぞり体験】

最後の寄港地、スワードに到着しました。ここでは先住民の文化である犬ぞり体験を行いました。14匹の犬に引かれて15分ほどの距離を走ってもらいました。曲がったり下ったりの道では思わず叫びながらも、終始みんな楽었습니다。子犬をなでたり抱っこしたり、そんな癒しの体験も行うことができました□そのあとは市内散策へ。

久しぶりの陸地で、英語での注文再来。子どもたちみんな、物怖じせず、自信をもって注文することができていました。この1週間で脅威の成長スピードです。思い出とともににお土産にして、はやく体験談を伝えたいと、みんな待ち遠しくしています。



7月29日（火）／Day9／洋上日

今日は子どもたちが南相馬を紹介する企画を行いました。船に合流してからもスライドや原稿の最終調整を行ったり、練習をしたりと頑張っていました。本番の会場は満席！座れない方もちらほら。そのくらいみなさん楽しみにしてくださいました。

自己紹介では、自分の名前をなんと4ヶ国語で挑戦！アドリブをいれたり、聞いている人を巻き込んだり、さまざまな発表スキルも垣間見えました。みなさんからの拍手ももらいながら、南相馬市の文化や歴史、自然などについての発表を通して、南相馬市の魅力を伝えることができました。



7月30日（水）／Day10／洋上日

今日は1日フリーな日でした。企画では戦争時代の話を聞いたり、同じ船に乗っている人たちの発表を聞いたりしました。また、バルーンアートを教えてもらい、実際に作るワークショップにも参加しました。南相馬の発表を終えて、多くの人に声をかけられた1日でもありました。

子どもたちは、自分たちの住んでいる街や地域について他の方々に知ってもらう、いいきっかけになりました。たくさん話を聞いて、たくさん話をした1日になりました。



7月31日（木）／Day11／洋上日

午前中はスペイン語の勉強をしました。場所の言い方や天気の答え方など、先生の真似をしながら発音したり、会話の練習をしたりすることを通して、スペイン語の知識を深めました。その後はそれぞれが参加したい企画へ行き学びを深めました。ボッチャにも挑戦！周りの方々に温かく見守られながらゲームに参加しました。またやりたいですね。

また、今日は「会話と対話」について考える時間もありました。「対話」は「どうしてそう思ったのか？」というよう、相手の考え方や意見を聞くことだと学びました。残りの船の生活でも「対話」を意識して生活できるといいですね。対話を通じて、船に乗っている多くの人の考え方や価値観にふれていきましょう。明日は戦争や歴史、文化、言語などのテーマについてお話を聞きます。



8月2日（土）／Day12／横浜帰港日

今日は日本語、英語、韓国語、中国語の通訳をしている方々との交流を行いました。自分のことについて紹介したり、通訳さんたちの話を聞いたり、ゲームを通して楽しみました。

また、小さな子どもや、小学生、中学生などとの交流も行いました。自分たちと歳の近い子たちと一緒に遊び、またお兄さんお姉さんのように接する場面も見られました。



8月3日（日）／Day14／洋上日

明日は再び発表の機会があります。2回目の発表では「この旅を通して経験したこと」という自分たちが楽しかったこと、学んだこと体験して作ったことなどを話します。終日、スライドや原稿づくりに取り組みました。

夜はみんなで通し練習をし、それぞれが明日の発表に向けての意気込みを伝え合い、気合も十分でした。ぜひ明日の発表を楽しみにしていてください。



8月4日（月）／Day15／洋上日

今日はいよいよ2回目の発表を行いました。堂々とした態度で3人とも頑張りました。2日くらいで完成させた原稿やスライドとは思えないくらいの完成度で、みんな感動していました。こでは、それぞれがこの旅を通して感じたことや学んだことを伝えました。ハプニングがあったけれど、それを楽しめたことや、ハプニングのおかげで出会えた人、景色を振り返ったり言語の大切さを改めて実感したり、貴重な経験を聞いている人に自らの声で届けることができました。

もうこの旅も終盤、ジュースで乾杯をして思い出に浸りました。明日はお世話になった方々とお食事をしたり、感謝を伝えたり、そんな1日にしていきたいですね。



8月5日（火）／Day16／洋上日

今日はピースボート災害支援センターのスタッフと「ゆたかさ」をテーマに話し合いました。そもそもゆたかさとはなにか？日本はゆたかであるのか？、そんなことを考えました。このお話会では、「1つの見方だけで判断しないこと」を学びました。「多面的な視点」で物事を考え、判断できる力が必要だと思います。

いろんな情報があるなかで、他人の意見に流されたり、1つの意見だけを取り入れたりするのではなく広い視野をもって物事を捉え、様々な角度から考えることによって物の見方も変わってきますよね。そんなことを学びました。



また、お世話になった方々とのフェアウェルディナーも楽しみました。夕食と一緒に食べながら、たわいもない会話を楽しみました。また会える日を願って。

8月6日（水）／Day17/洋上日

明日は横浜港に到着します。船生活が終わりに近づいています。寂しさを胸に、最後の船でやりたいことをやり尽くす1日となりました。

レストランで仲良くなったスタッフさんと会話をしたり、アイスをたくさん食べたり、今日はランチもディナーもコースを堪能しました。

明日にむけて、今日は荷物のパッキング。荷物の整理とともに思い出も整理して、いい旅の締めとしていきましょう。



8月7日（木）／Day18/横浜帰港日

今日で船内生活が終わり、横浜港から東京、そして福島南相馬へと、それぞれが得た経験を胸に、保護者のもとへと帰っていました。

別れはいつだって寂しいものですね。この18日間の日々を振り返ると、みんな毎日成長していました。その成長を自身でも感じ、そしてそれを言語化し表現する。そんな力も身についていました。

周りの多くの大人たちに「貴重な経験だ」と言わましたが本当にそうです。ここで得たものを、南相馬に帰った今も、そしてこれからも、自分たちの思うように生かしていくください。



メディア掲載情報

2025年11月16日(日) : 福島民報 掲載



福島民報

2025年11月16日(日)

のニュース	国内外ニュース	スポーツ	特集・連載	あぶくま抄・論説	気象・防災
紙のお申込み(無料)	主催事業	出版ガイド	会社案内		

[トップ](#) > 福島のニュース > 主要 > 海外体験で英語力と自信育む ピースボートに参加、福島県南相馬市の中学生 市役所で帰着報告

主要

海外体験で英語力と自信育む ピースボートに参加、福島県南相馬市の中学生 市役所で帰着報告

2025/11/08 15:26



ピースボート福島子どもプロジェクトに参加した福島県南相馬市の中学生3人は7日、市役所を訪れ、門馬和夫市長と大和田博行市教育長に帰着報告した。外国語での会話を通じ、コミュニケーション力を養った成果を伝えた。

市内のNPO法人南相馬こどものつばさの仲介で原町二中の野口さらささん(3年)、石神中の水戸稀聖さん(同)と小丸なるみさん(同)の3人が訪れた。3人は7月21日から8月7日までの18日間にわたるプログラムに参加し、香港やカナダのバンクーバー、米国アラスカ州のシトカ、スワードを訪れた。世界1周旅行をしているピースボートに途中から乗船し、乗客の日本人や外国人に南相馬市や福島県を紹介した。アラスカでは犬ぞりの体験をするなど、現地の文化を学んだ。

3人は旅行先のさまざまな場面で英語を使い、買い物や観光したことを紹介。船では中国語や韓国語であいさつしたことでも語り「積極的になれた」「また外国に行きたいと思った」「トラブルがあったが前向きに考えられるようになった」と成長した姿を見せた。

門馬市長、大和田市教育長は旅行の思い出や学校で学ぶ英語との違いなどを尋ねた。

南相馬こどものつばさの西道典代表、佐藤慎治事務局長、引率した佐久間美結さんが同席した。

(相双版)



ピースボートでの経験を報告した(前列右から)水戸さん、野口さん、小丸さん

◆参加した子どもたち、保護者の声（感想文より一部抜粋）

「この旅で楽しかったことは、香港やシトカの街並みや歴史的な建物を見に行けたことです。香港では美術館に行きたくさんの絵を見ました。絵を見てみると日本と違う絵の描き方や表現の仕方があり見ていてとても面白かったです。シトカでは博物館に行きました。そこでは先住民の過ごし方を学びました。シトカ独自の文化で面白かったです」（野口さらさ）

「18日間でたくさんの人と出会えたことがよかったです。船の中はもちろん、船に着く前の道中や各滞在先でたくさんの人と出会い、たくさん話をして、たくさん思い出を作って来られたことがこの旅一番の思い出です」（水戸稀聖）

「衝撃を受けたのは、『原爆の被害にあった写真』でした。その写真たちは、わざと画質を粗くしているそうです。なぜでしょうか。その画質の悪さが、モザイクや時代の背景と重なり、まるで本当にその場面に遭遇したかのような気分になりました。少しの時間でもその場所に立ち止まって考えていると、体に何らかの負荷がかかり、気分が悪くなってしまったのです。その資料館には、数々の原爆や、その被害にあった方々の写真が多くありました。私は全部の写真を見るために、何回も外の空気を吸ってまた戻ってくる、ということを繰り返していました。彼らが味わったものは、このようなものではないでしょう。しかし、体験談を聞くという行為も、人間には相当な負荷がかかります。これはまた、彼らとは違う心の痛みでもあります。この経験は、自分と相手の心情を深く考える『タネ』にもなると、私は思っています」
(小丸なるみ)

「船内で発表する資料も一人で作り上げ、旅が始まる前から頑張っている姿が見られました。旅が始まり、初日からトラブルがあったようですが、写真や報告などからそれも含めて楽しんでいる様子が分かり遅しくなったなと感じました」（保護者）

「クルーズ船では、日本の中学生として地元の文化や特徴を発表する機会をいただきました。普段からパソコンに親しんでいるため、資料作りはとても楽しんでいました。特別な雰囲気の中で観客からの良いフィードバックもあり、大きな自信につながったと思います」（保護者）

「プロジェクト参加後は、その経験も有ってか、前より学校生活も自主的に、やりたい事はとりあえずやってみる精神が身に付きました。失敗恐れず楽しむ姿が一番変化したと言えます。貴重な経験をありがとうございました」（保護者）

◆引率スタッフより

自分たちで「つくる」18日間にしよう。そんな目標を決めて始まったこの18日間の旅は、ハプニングから始まりハプニングで終わるという、とてもアドベンチャーな、そして記憶に残るものでした。旅のトラブルも自分たちで「たのしい」出来事に変えていき、そこから多くのことを「まなび」それを持ち帰って「おみやげ」として家族や友達に伝えていく。子どもたちは自分たちで「たのしい・まなび・おみやげ」の3つの「つくる」柱を軸にこの旅を経験しました。

1日目には香港を経由してバンクーバーに行くはずが、台風の影響により、香港に1泊して次の日は観光するというハプニング、子どもの言葉を借りると「ハプニングから生まれたラッキ一体験」がありました。バンクーバーに着いてからも、船はすでに出発していて…。バンクーバー空港のホテルに1泊し、次の日はシアトル空港を経由し、アメリカのシトカへと向かいました。2日目にしてまたも予定にない出来事が、私たちを貴重な経験へと導いてくれました。子どもたちにとって「英語」を使ってコミュニケーションをとる、という大きな挑戦の機会もたくさんありました。お店での注文を、道を尋ねるとき、ホテル、日本語が通じないという環境のなかで、子どもたちは自分のできる限りで精一杯言葉を伝えようとしていました。初めは自信がなく引率の私に頼る場面が多かったものの、だんだんと1人でも積極的に現地の人とコミュニケーションをとっていました。

船内生活では2回も発表があり、たくさんの人に南相馬についてや自分たちの旅の経験について伝えることができました。一緒に乗っている人たちと卓球やボッチャをして遊んだり、日本を襲った被害の話や環境問題などについても学びました。

今回の18日間の船旅により、子どもたちが地元では出会うことのできない人々との交流ができ、学校の教科書では学ぶことのできない知識や経験を吸収することができました。その経験は復興半ばの南相馬市の明るい未来を切り拓く大きな力となることだと思います。

最後に今回のツアーにご協力くださったピースボート、ピースボート災害支援センターの皆様、そして子どもたちをこの貴重な船旅へと送り出してくださった保護者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(佐久間美結)

旅の成果

- ・初日からの飛行機遅延・予定変更は大きな不安要素だったが、その中から計画通りにいかなくても楽しむ、状況に応じて自分たちで判断する力が育まれた。
- ・現地の人に道を聞いたり、店員に英語で注文したりできるようになったことにより、失敗を恐れず話すことの大切さに気づき、人と関わることが楽しいと感じられるようになった。
- ・船内で行われた南相馬紹介、旅の体験発表の2回の発表では、準備から本番まで高い集中力で取り組み、自分たちの住む南相馬を見つめ直し、堂々と発信する表現力や伝える力が高まった。
- ・長崎の被爆体験などを被爆者から直接話を聞くことにより、歴史の重さを心で理解する経験となり、相手の立場を想像する力が深まった。
- ・船のスタッフ、道中で助けてくれた人、同じ船に乗る大人や子どもたちとの出会いと別れを経験し、人とのつながりが人生を豊かにすることを実感した。
- ・この18日間の旅を通して、主体性（自分で考え、行動する力）、コミュニケーション力（異文化・多世代とつながる力）、表現力（自分の言葉で伝える力）、多様性への理解（違いを認め、興味を持つ姿勢）、歴史・平和への感受性（痛みを受け取る想像力）、困難を前向きに楽しむレジリエンスなどを身につけた。

◆南相馬こどものつばさより

東日本大震災と原発事故から14年が経過しました。復興も進み、緊張から解放され落ち着いてきつつあります。しかしその反面、安堵とは違う色々な物を失った空虚感を感じて鬱になり、引きこもってしまう傾向の部分も見られます。

「南相馬こどものつばさ」としては子ども達に未知の新たな世界との出会いを提供したいと考え、ピースボートさんのご協力の下、視野を広げ、海外にも目を向け、短い期間ですが色々な人との交流ができるパシフィックワールド号への乗船をさせて頂きました。

夏休みを利用して途中からの乗船したため、前から乗船している方たちと仲良くなるためにはどうしたらよいかを話し合ったところ、「自分はどんなところから来たのか」を紹介しようということになりました。南相馬市のプレゼンテーションのために、パワーポイントをみんなで手分けしてあっという間に作り上げて参加しました。

渡航初日から台風の影響で出発が遅れ、予定が大幅に変更となるアクシデントに見舞われました。しかし狼狽えることなく、みんなで協力し、逆にそのことを楽しもうとする姿。ピンチをチャンスと捉え、知恵を出し合い乗り越える力を身につけることができた旅となりました。

帰国後、市長訪問での報告会では教育長が英語で質問しても臆することもなく受け答えをする姿を見て、今回参加した子ども達の成長ぶりに感心しました。この子ども達の姿に、震災と原発事故に見舞われた南相馬市にとって大切にしたい心意気を教えられた思いでした。

この小さな芽が広がる応援をしてくださったピースボート、ピースボート災害支援センターの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(南相馬こどものつばさ：事務局長 佐藤慎治)